

平成21年度茨城県立猿島高等学校自己評価表

目指す学校像	(ア) 一人一人の生徒を大切に、きめの細かい指導を行う学校。 (イ) 一人一人の個性を伸ばし、自己実現を図る学校。 (ウ) 地域に開かれ、社会に貢献する学校。 (エ) よりよい自然環境、生活環境に配慮する学校。				
	昨年度の成果と課題	重点項目	重点的目標	達成状況	
	学力に関しては、チームティーチングや習熟度別学習を取り入れたきめ細かな教育活動を通して基礎学力の向上に努めたい。授業参観などの内部研修を充実し、分かる授業の工夫を図りたい。	ア 基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫により、各教科・科目の興味・関心を高めるよう努める。 チームティーチングや習熟度別授業の充実を図る。	A	
	スクールカウンセラーを導入して不登校や自虐的傾向の生徒などのフォローにあたりたい。また、交通事故防止に努め、公衆道徳やマナーの充実を図りたい。	イ 基本的な生活習慣の確立を図る。 ウ 教育相談の充実を図る。	規律ある学校生活を送るため、ホームルーム活動や学年集会、学校行事等を通して、正しい判断による自己表現力と豊かな人間関係の醸成を図る。 心の健康を大切に、生徒の心の悩みを解決するため、教育相談の充実を図る。	B A	
	部活動では参加生徒が少ないので、活性化を図り、結果を残せるよう一層の努力と工夫を重ねたい。	エ 特別活動の活性化を図る。	部活動に意欲的に参加し、活動が継続できるように顧問教師と部員及び部員相互の望ましい人間関係の醸成に努め、部活動の活性化を図る。 H R 活動・生徒会活動・学校行事の活性化を図る。 人間としての在り方生き方を学び、進路意識を高める。	B	
	先進農家や北海道での農業体験実習、建設現場見学及び実習を通して、望ましい職業観や勤労観の養成に努めた。公開講座として、食品加工講座(食品加工を楽しむ)、また、公開講座として、フラワーアレンジメント講座・パン作り講座を開設し、さらにヤマコリ里親募集等、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼確保に努めた。	オ 進路指導の充実を図る。 カ 特色ある施設・設備を生かした地域との連携交流を図る。	農業実習、建設現場等でのインターンシップを通じ、望ましい職業観や勤労観を養成し、生徒の進路意識の高揚に努める。 農業関連学科特有の施設・設備を最大限に生かして、食の安全安心等に係る、特色ある開放講座や体験講座を開設し、地域との連携・交流に努め、地域貢献を図るとともに、地域からの信頼を確保する。	B A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	地域や生徒の実態を把握し、特色ある教育課程の編成に努める。	中学校・地域との連携を図る。		A	・総合学科を中学校関係者や地域の人々に浸透させる。 ・ITや習熟度別学習に力を入れたきめ細かな教育に努める。 ・新学習指導要領を踏まえた教育課程の編成に努める。 ・総合学科における授業の確保を検討する。 ・授業の終始時刻の厳守に努める。 ・授業参観期間を設け、指導力の向上を図る。 ・生徒の意欲・興味・関心を引き出す授業内容の改善を図り、分かる授業の実践に努める。 ・資格取得の充実を図り、学習意欲を高める。 ・基礎学力テストデータの各教科への有効利用に努める。 ・長期休業中の補習並びに課外の充実に努める。 ・学校支援システムの研修を推進し、運用の充実を図る。 ・職員の一線にあった研修会の実施と情報の共有化に努める。
		生徒の多様な進路に応じた教育課程の編成を行う。		A	
		3年間を通した到達目標・指導計画の確立を図る。		A	
	魅力ある学校生活を目指しながら、授業の量的確保と質の充実を図る。	行事等の能率的な運営を図る。		A	
		授業終始時刻の厳守に努める。		B	
		出張・年休等における授業の確保(振替)に努める。		A	
	自主的学習意欲を高める効果的な学習指導法の研究実践を図る。	各教科と連携を密にし、生徒の実態に即した年間指導計画と、その計画に沿った学習指導ができるように努める。		A	
		分かる授業の実践及び授業の創意工夫ができるように研究授業の実施に努める。		B	
	学科の特色を生かし、充実した実験実習を展開し、学習意欲の向上を図る。	学習意欲の低い生徒・学力の低い生徒への計画的な指導を行う。		B	
		進路実現のため資格取得などの具体的目標を設定し、学習に取り込む姿勢や学習意欲を高める指導の工夫改善を図る。		B	
職員研修を推進し、資質の向上を図る。	人権教育等についての教職員研修会を充実させる。		A		
	研修の成果や情報を教員間で共有できるように努める。		A		
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分				

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立をはかる。	週番活動並びにさわやかマナーアップ運動を展開し、正門立哨指導であいさつの励行に努める。		B	B	・生徒が、服装頭髪指導日だけでなく、日常において自主的に身だしなみを正す場を設け、徹底させたい。	
		服装頭髪指導を定期的に行い、保護者と連携を密にして、きちんとした身だしなみを身につけさせる。		A			
	交通安全教育の充実を図る。	交通立哨指導を春・秋の交通安全運動期間と毎月交通安全の日に実施し、事故防止に努める。			B	B	・自転車の再点検の徹底を図りたい。
		自転車点検を定期的に行い、不良箇所の改善と安全運転を呼びかける。			B		
		原付通学者に対して許可試験と実技講習会を実施し、交通ルールとマナーの確認並びに運転技術の向上に努める。			A		
		交通講話を開催し、生徒の安全意識の高揚を図り、事故防止に努める。			B		
	教育相談を充実し、生徒理解を深める。	二者面談を行い、生活状況把握や悩み事等の相談の機会を持ち、生徒理解に努める。			A	A	・三者面談期間のみならず、家庭訪問や保護者の来校等の機会を積極的に活用し、家庭との連携をさらに深め、生徒理解に努めたい。
		三者面談を行い、家庭との連携を深める。			B		
		スクールカウンセラーを活用し、生徒の心の悩みを解決する。			A		
		いじめ問題対策研修会を行い、未然防止や指導方法の認識を深める。			A		
	問題行動の未然防止に努める。	校内巡回指導を行い、生徒の状況把握と問題行動の未然防止に努める。			A	B	・より効果的に巡回指導等が取り組める体制づくりに努める。 ・H R等を活用し、ケータイ・ネット安全利用についての周知徹底を図りたい。
		校外巡回指導を行い、地域関係機関と連携し、問題行動の未然防止に努める。			A		
ケータイ・ネット安全利用についての講習会を開催し、家庭での携帯電話利用に関するルールづくりやフィルタリングの利用促進を図る。				B			
不審者や校外での問題発生時に迅速に対応できるよう努める。				B			
進路指導	人間としての在り方生き方の指導の一層の充実。	教育活動全体を通じたガイダンス機能の充実。			A	A	1 基礎学力のより一層の向上を図りたい。 2 企業訪問の充実（学校と企業の連携） 3 インターンシップの充実（各系列）
	望ましい職業観・勤労観の形成と主体的な進路選択能力の育成。	自らの意思と責任で、進路を主体的に選択する能力や態度を育成する指導の工夫。 進路相談の計画的・継続的な実施。			A		
	進路に対する理解と協力を得るための保護者への啓発。	保護者への継続的な進路啓発活動の実施。			B		
保健厚生	心身の健康に対する意識を高める。	保健便りや保健ニュース等の掲示により、情報を提供する。			A	A	生徒の実態に即した情報の提供を充実させたい。
		教科「保健体育」と連携し、防止教室や性に関する講演会を実施する。			A		
	校内環境の整備・充実を図る。	委員会の活動内容を考え、環境美化活動の活性化に努める。			B	B	生徒の自主的な環境美化の取り組みに力を入れたい。
		ゴミ分別を徹底できるように工夫する。			C		
		校内美化日を計画し、学習環境を整備する。			B		
安全対策の強化に努める。	緊急対策マニュアルを周知徹底する。			B	B	情報の共有化に努め、より一層の共通認識のもと、保健・安全に努める。	
判定基準	A：大変良くできた B：良くできた C：やや不十分 D：不十分						

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題		
図書	図書室の施設設備・資料の充実を図る。	書架やパソコンを更新（図書室）する。		A	図書室利用について生徒のマナー向上に努める。 図書の貸し出し手続きを周知徹底し、紛失図書をなくす。		
		職員・生徒の希望図書を購入する。		A			
	視聴覚資料の収集・保管に努める。	授業や学校行事等で使用するビデオ・DVD等を購入し整理する。		B		B	
	読書に興味関心を持たせるような指導に取り組む。	校内読書感想文コンクールを実施する。		A		A	
		上記コンクール入選者の表彰および入選作品集を作成する。		A			
	図書委員会活動の活性化に努める。	カウンター作業や書架の整理をする。		A		A	
		各種統計を作成する。		A			
図書室の広報活動に取り組む。	図書館報, 図書館だよりを発行する。		A	A			
	新規購入図書や各種統計を掲示する。		A				
渉外	保護者の各行事への参加意欲の向上を図る。	各行事に工夫を加え、参加保護者の意欲向上をはかる。		A	A	各行事内容の精選と工夫を継続して参加意欲を高めたい。	
	継続的な重点行事を掲げその充実を図る。	PTA支部活動の充実を図り、その活動の支援を行う。		A	A	支部活動の助成・支援の方策を考える。	
	教職員と保護者の連携を密にし、生徒の健全育成と成長を支援する。	P T A活動を活性化させ、P T A総会や支部P T A、P T Aだよりなどで保護者と教職員間の連携を図る。		B	B	次年度も保護者と教職員の連携・協力を高めたい。	
特別活動	生徒会活動を活発に行うようにする。	「さわやかマナーアップ」運動の手伝いとして、朝の立哨指導に参加させる。		A	A	生徒が主体的に活動できるよう支援する。	
		学校行事の運営に積極的に携わる。		A			
	望ましい集団生活を通して、自主的・実践的な態度を育てる。	収穫祭のポスターを近隣中学校や商店街に配布する。		B	B	校外での活動にもより積極的に参加できるようにする。	
		校外のボランティア・体験学習に積極的に参加させる。		C			
	部活の推進をはかる。	各々が、年間を通して継続的に活動できるようにする。		B	B	少人数でも活動できる体制を作る。	
農場	勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感じさせる。	現場実習等でのインターンシップを通して勤労観・職業観を養成し、働く喜びを感じさせる。		B	B	・園芸科・緑地土木科の継続指導の充実 ・総合学科（生物資源系列・環境デザイン系列）の系統的な学習の推進	
	施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	圃場及び実験室を充実させ、生徒一人一人の能力に応じた分かりやすい・魅力ある実験・実習を通じ、興味関心を高め、基礎的な知識・技術を習得させる。		A	A		
	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。	系統的プロジェクト学習の充実した展開をはかる。また、課題研究は、生徒一人一人の能力に応じた適切な指導に留意する。資格取得希望者の拡大を図る。		A	A		
事務	会計の効率的で適正な執行に努める。	教育活動が円滑に進められるよう効果的な予算執行に努める。		A	B	・授業料納期限内納入率は前年度より4.9ポイント低下している。滞納額の7割が1年次に集中していることから、学年・担任との連携を一層強化して納入率向上を目指す。 ・電気使用量は前年とほぼ同じ、水道使用量は13%減少した。節約に向けた取り組みを継続していく。 ・校舎等定期点検結果に基づき、計画的に改修を行い施設設備の完全性を確保する。	
		学年・担任との連携を深め、授業料等の期限内納入率の向上を図る。		C			
		節電・節水に努め光熱水費予算の削減を図る。 外部発注印刷物については必要性を再検討する。		B			
	開かれた学校づくりをめざす。	来校者や電話対応の接遇向上に心がける。		A			A
		学校行事等の広報に努める。		A			
	施設、設備等の適正な管理に努める。	安全な教育環境を保持するため施設・設備を適切に管理する。		A	A		
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分						

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題
1年次	基礎学力の定着に取り組むとともに、進学希望者の学力の伸長を図る。	朝のSHR時に小テストを実施し、学習に向かう雰囲気作りをする。		B	B ・小テストを実施したが、回数が少なかった。より計画的に実施し、基礎的な学力の定着を図る。 ・夏休みの課外を実施したが、平常日の課外を設定することが出来なかった。進路希望に応じて設定したい。
		夏休みや平常日の放課後の課外を設定し、進学希望者に対応する。		B	
	社会の一員としての規範意識を生徒に根付かせる。	服装・頭髪・言葉遣い等について、生徒に繰り返し指導する。		B	B ・学年全体で生徒の情報交換を密にすると共に、保護者との連携を取り、協力を求めながら、社会性を身につけさせる指導を行う。
		保護者との連携を密にして生徒理解に努め、充実した生活を送らせる。		B	
進路意識の醸成を図る。	進路講演会や見学会、「産業社会と人間」の授業を通して、進路について考えさせる。		A	A ・進路に関する情報提供を行い、早い時期からの意識開眼に努める。	
2学年	問題行動を流さず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	服装頭髪等の指導を徹底する。		B	B 頭髪に関しては、昨年度からの指導によって落ち着いているが、服装については、今後更に指導していく必要がある。 修学旅行等行事において、服装や時間を守っての行動ができた。来年度は、日常においても更に遅刻を無くし、卒業、就職試験等に向けて、生活全般の指導を粘り強く行っていきたい。
		時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、学校生活の充実と向上を図る。		B	
		ホームルーム、面談等を通して生徒理解に努め、保護者の協力を得ながらけじめのある生活を送れるよう指導する。		B	
	自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	修学旅行等の学校行事や部活動を通して、よりよい人間関係を築き充実した高校生活を送らせる。		B	B 今年度、職員間の情報交換を密に行い、更に進路情報交換会を開くなどして、生徒指導だけでなく、進路指導においても情報交換を行った。来年度は、生徒の進路実現に向け、協力し、努力していきたい。
教科担任や関係職員と生徒についての情報交換を積極的に行い、面談等を通して一人ひとりの長所を伸ばすよう努める。			B		
社会の一員として必要な資質の育成に努め、さらに進路実現のために必要な援助を積極的に行って、充実した生活を送らせる。	ホームルームや学年集会において、将来の自分探しの機会を与え、自己を見つめさせる。		B	B 今年度は、おもにガイダンスで生徒の進路意識を高めたが、来年度は、ガイダンスやHR・面談・放課後の指導等により、全体や個別に指導し、多方面から働きかけをして、将来についての意識を高め、生徒の自己実現に向け努力したい。	
	進路講演会や進路分野別ガイダンスなどの機会を通して、将来の生き方を考えさせることで、今何が大事かということに気づかせ実行させる。		B		
3学年	問題行動を流さず、きめ細かく指導することにより、けじめのある行動を取れるようにする。	服装頭髪等の指導を徹底する。		A	A 言葉遣いや、人と接するときの礼儀作法に関する指導を徹底させる。 履歴書を書く際、文字の書き方での訓練が大いに必要であったため、日頃の授業ノート等でも徹底した取り組みが臨まれる。
		時間や約束を守る指導を通して自己の責任の重要性を認識させ、学校生活の充実と向上を図る。		B	
		ホームルーム、面談等を通して生徒理解に努め、保護者の協力を得ながらけじめのある生活を送れるよう指導する。		A	
	一人一人を大事にし、自分の長所、可能性に気づかせ、健康で明るく充実した学校生活を送らせる。	教科担任や関係職員と生徒についての情報交換を積極的に行い、面談等を通して一人ひとりの長所を伸ばし、社会の一員としての態度を育成する。		A	
	進路実現のために、進路指導部と協力して必要な援助を積極的に行い、努力し向上する姿勢を身につけさせる。	基礎学力を向上させ、進路決定に導く。 進路講演会や進路分野別ガイダンスなどの機会を通して、将来の生き方を考えさせることで、進路決定に全力を注ぐ。		B	
国語科	国語を的確に理解する能力を育てる。	漢字検定に向け、計画的・段階的な指導を行う。		B	B ・学級内の個々の生徒の意識、能力の差を踏まえた授業展開を工夫する。
	言語感覚を磨き、意思を伝える能力を育てる。	個々の生徒が、意見・感想を書くことができるような作文指導を行う。		C	
	思考力や考え方を深め、心情を豊かにする態度を育てる。	多くの作品に親しむことにより、多様な価値観に気づかせる。		A	
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分				

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題
地歴・公民科	生徒の学力に応じた分かり易い授業展開する。	授業計画は都度都度見直して、生徒の実態に合わせて柔軟に変更する。		A	A ・引き続き生徒の実態把握と適切な指導に努める
		授業終了後、指導内容・方法について点検し、改善すべき点を考える。		A	
	基礎学力の向上を推進する。	授業内容を基礎的基本的事項に精選し、丁寧な解説を通じて確実に理解させる。		A	A ・生徒が自発的に復習できるように工夫する。・視聴覚教材の更なる充実を目指す。
		レジュメを配布し、生徒本人が学習内容を反復学習しやすいようにする。		B	
		練習問題プリント等を利用した復習を行い、学習内容の定着を図る。		A	
		定期考査の前には総復習を行い、考査後は定着度の低い部分について再度解説して学習させる。		A	
	生徒が学習内容をより具体的に把握できるように、授業方法の改善に努める。	教科内の相談を密にし、授業内容・方法について互いにアドバイスし合う。		B	A ・教科内での情報・意見交換を一層密にし、相互の研鑽・協力を強める。
		様々な機会を利用して自己研修に努め、その成果は教科会で互いに情報交換する。		A	
		年数回、教科全員で学校内外での研修会を企画し実施する。		A	
	数学科	基礎学力の定着を図る	基礎学力検査を利用して、理解度を把握し、不十分な生徒へは補習等を実施する。		B
1クラスの人数が少ないことを利用して、机間指導を増やし個に応じた対応を心がける。				A	
数学が分かる喜びを実感する授業への取り組みに努める		提出物の機会を増やし、こまめに生徒の学習状況を把握するよう努める。		A	
		チームティーチングの授業においては、2人の教師の連携を密にし、協力して授業を実施する。		B	
理科	知的好奇心や探究心を喚起し、自然に関する興味・関心を養う。	授業の展開に創意工夫をこらし、魅力ある教科指導に努める。		A	A ・3つの具体的な目標をバランスよく達成できるよう努力する。 ・観察・実験の充実を図り、それに伴う考察の時間を十分に取れるよう配慮する。 ・昨年に引き続き、実験器具の充実を図る。
	科学的に自然を調べる方法や技術を身に付け、問題解決能力を養う。	観察・実験を適切な時期に行い、かつ事前指導や考察の時間を十分に取るようにする。		B	
		生徒が自分の意見や考えを検証したり、発表したりできる機会を適宜設ける。		B	
	自然に関わる基礎基本的な知識を身に付け、科学的な自然観を育成する。	重要事項をおさえ、必要に応じて反復練習や小テストを取り入れ、基礎基本の徹底を図る。		A	
		基礎基本から、自然を統合的にみる見方や科学的なものの見方を養えるよう、分かりやすく授業を展開する。		A	
判定基準	A: 大変良くできた	B: 良くできた	C: やや不十分	D: 不十分	

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度(学期)への主な課題		
英語科	基礎的な能力を養う。	日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える基礎的な能力を養う。		C	B	・1年次の生徒数が例年以上に増え、2・3学年生徒と同様の個に応じたきめ細かな指導ができなかった。来年度は1クラスを最低2クラスに分け、習熟度別学習指導をぜひ実施したい。 ・ALTとのチームティーチングは、生徒にとって英語によるコミュニケーションをはかれる貴重な機会として定着してきているので、今後も継続的に実施したい。	
	効果的なALTの活用。	ALTと協力し、アイデアを出し合いながら実践的コミュニケーション能力の育成を目指した授業を行う。		B			
	チームティーチングの充実	チームティーチングにより、生徒1人1人のきめ細かな指導が出来る授業作りを目指す。また、教師相互間の連携がスムーズに取れるよう工夫する。		B			
家庭科	家庭生活へ積極的に参加する意欲・関心を養う。	社会の最小単位である「家庭」について興味・関心をもたせる。		A	B	・被服実習においては、生徒ひとりひとりの習熟度に応じた指導を目指す。 ・調理実習の時間の確保と内容の充実に努める。 ・現代の社会に対応した、「家庭」「保育」「消費生活」「住生活」の知識を身につけさせる。 ・保育実習は、「子どもを持つこと」の意義や「働くこと」の意義を学ぶ良い体験だったので、今後も継続していきたい。	
		高齢期を自分の一生の問題として考えることができるとともに、同世代を生きる高齢者との交流が図れるように、高齢者の生活、高齢者の介護についての基礎的な知識を習得させる。		B			
		子どもを持つことの意義を考えることができるとともに、子どもの心身の発達、乳幼児の基本的な生活課題、子どもの保育、児童福祉についての基礎的な知識を習得させる。		A			
	家庭生活に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	実験・実習を通して衣生活・食生活・保育などの基礎的な知識・技術を習得させる。		B	B		
	家庭経営の立場から家庭生活の充実向上を図る能力を育てる。	消費生活・住生活などに関する基礎的な知識を習得させ、一人の家庭人・社会人として自立した生活が送れるように指導する。		B	B		
	ひとりひとりの消費行動が、資源・環境問題と大きく関わりのあることを理解させる。		B				
保健体育科	基礎体力の向上を図る。	基本的トレーニングを授業の中に取り入れる。		A	A	・水泳補習、マラソン補習に体育科教員だけではなく、職員全体で共通認識を図り、各学年の先生方にも協力していただきながら学校全体で取り組んでいく。	
		球技等において、全員が体を動かせる時間を出来るだけ多く取る。		A			
	集団行動の充実を図る	集合、整列、挨拶等の徹底して指導する。		B	B		
	基本的な生活習慣の確立	保健の授業において、健康についての知識を学び、自ら実践できるように指導する。		A	A		
芸術科	基礎学力の向上を図る。	生徒一人ひとりの能力に応じた分かりやすい授業の創意工夫を行う。		A	A	・実用書の手本の充実を図り、実習時間を確保する。 ・搜索の多様性とその可能性への理解を深める。 ・検定合格率アップを図る学習時間の確保に努める。	
		生徒が自主的に取り組む指導を図る。		B			
	感性と技術の向上を図る。	芸術における基礎・基本を身につけさせ、感性を育てる。		B			B
	魅力的な授業の展開を図る。	生徒を引きつける魅力的な授業の展開を図る。		B			B
情報科	情報技術を活用する実践力を高める。	中学校での学習の程度を踏まえ、生徒のレベルに合った指導を行う。		B	A	・生徒ひとりひとりの習熟度に応じた、きめ細やかな指導を目指す。 ・多様化し続ける情報社会に参画するためのモラルとセキュリティの意識を身につけさせる。	
		実践的な実習を通して、基本的な情報機器活用の技能を習得させる。		A			
	情報を主体的に活用する態度を育てる。	情報通信ネットワークの適切な活用を積極的に取り入れる。		B			B
	情報社会に参画する意欲の向上を図る。	情報モラルの育成を目指す。		A			A
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分						

評価項目	具体的目標	具体的方策	番号	評価	次年度（学期）への主な課題
普通科	創意と工夫を加えた学習指導により基礎学習の向上に努めるとともに、一般教養を高めることに重点を置き、さらに進路指導を重視し、責任ある民主的な社会人を養成する。	基礎的基本的事項を踏まえたユニークな授業の展開。		A	B 基礎基本の定着と進路に向けた教科指導の充実を図る。
		一般社会人として恥ずかしくないだけの最低限度の教養を身に付けさせる。		B	
		進路教育と結びつきを深めた学習内容の展開。		B	
		生徒の個性や能力に応じた学習指導の展開。		A	
園芸科	園芸作物の栽培・加工及び幅広い活用に関する知識と技術を習得させる。	プロジェクト学習を充実し、学校農業クラブ活動を強化する。		B	A 園芸科教育の集大成。
		施設設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用を図る。		A	
	農業経営者及び食品、ヒューマンサービスなど農業関連業務に従事する者として必要な能力と態度を養う。	体験学習や資格取得を通して、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感得させる。		A	
緑地土木科	自然環境の保全や地域開発に関する知識と技術を習得させる。	自然環境の保全の必要性と地域開発の大切さを考えさせる。		A	A 教科書学習を中心として自然環境の保全を学習させる。
		造園に関する知識と技術を習得させる。	造園の歴史や諸外国の庭園の特徴を習得させる。 技能中心科目では実習中心におこない、基本的な技能を習得させる。	A A	A 日本・外国庭園の学習と庭園製作実習を推進する。
	土木に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	距離測量や平板測量などの基本的な技能を習得させる。		A	B 測量実習・計算をとおして総合的な理解をうながす。
		実験や実習を充実して実践的な内容で実技が展開できるようにする。 トレース検定受検、橋梁などの模型作成を行い創造力を高める。		B A	
	造園に関わる業務に従事する者としての必要な能力と態度を養う。	造園コースでは技能検定3級造園の学習に取り組みせる。		A	A 技能検定3級造園の受験をとおして総合的な理解をうながす。
		技能検定3級造園の実技に取り組みせる。また卒業庭園製作に取り組む。		A	
	体験学習や資格取得をとおして、勤労の尊さを自覚させ、働く喜びを感得させる。	建設現場見学会により、建設業の魅力や役割を知る一助とする。		B	A 資格取得など学科・系列へのスムーズな移行を実現する。
		現場実習を通して、望ましい勤労観を養う。		A	
		資格取得を推進し、日頃の学習を充実させ、将来に対して自信を持たせる。 建設業の大切さを理解し、将来の職業に対する見通しと自信を持たせる。		A B	
	施設・設備を充実し、実験実習教育を徹底して、その活用をはかる。	基本的な知識や技能を身につけさせるため施設設備を整える。		B	B 学科並びに新しくはじまる系列科目の実験実習を充実する。
		新しい系列展開のための施設設備・機材を充実させる。		B	
		実験実習が適切に行えるよう、実験器具機材などの整備に努める。		A	
判定基準	A: 大変良くできた B: 良くできた C: やや不十分 D: 不十分				

平成18～20年度の自己評価表については、URL (http://www.sashima-h.ed.jp/h_nendojikohyoukahyou.pdf) の 部分の 数字を変えてご覧ください。